

## 6.3 人文

### 6.3.1 評価に用いた資料

- ・ぶらり土屋の里めぐり  
(ささりんどうクラブ)
- ・土屋郷土史(ささりんどうクラブ)
- ・平塚の石仏15、16(平塚市博物館)
- ・平塚市史民俗調査報告書(平塚市)
- ・平塚市保全樹(平塚市)
- ・国指定文化財(文化庁)
- ・神奈川県指定文化財(神奈川県)
- ・平塚市指定文化財(平塚市)



道祖神 2005年10月22日撮影



吉沢の池の水神 2005年7月21日撮影

### 6.3.2 調査の結果

#### 【道祖神・水神】

道祖神は、疫病悪霊を防ぐため、村境、辻、路傍などに祀られる神様です。「さいのかみ」ともよばれ、旅の安全を守る神や、子孫繁栄の神、縁結びの神ともされています。集落の生活と密接なかかわりを持ち、本地域においても主要道路である県道77号線(平塚松田線)沿い、県道63号線(相模原大磯線)沿い、土屋小学校から中沢橋に至る道路に沿った集落付近に多くみられます。

水神は、水をつかさどり、飲み水や田の水などを支配する神様で、滝や湧水地、水田など水とかわる場所に祀られています。土屋地区では駒ヶ滝と源水、吉沢地区では霧降りの滝と吉沢の池でみられました。

#### 【史跡】

史跡は、平安時代末期に構築された土屋城跡周辺に多く分布し、塚や石祠、塔などがみられました。

#### 【保全樹】

保全樹は、市の保全樹として、地域内で5箇所が指定されています。

#### 道祖神とだんご焼き

石仏には、お地蔵様、庚申塔などいろいろありますが、自然とかわりながら生きてきた地域の人びとにとって、もっとも身近なものは道祖神(どうそじん、どんど)でしょう。さえのかみ、さいのかみ、せえのかみとも呼ばれています。

地域に住む人びとの生命や財産を守り、子孫の繁栄をつかさどる神として、集落の出入り口、辻や道端、畦道に祀られてきました。1月14日には、この道祖神のところで集落ごとに「だんご焼き、どんど焼き」が行われます。各家々では、前日の13日に、米の粉で白、赤、緑など様々な色で丸い団子や米俵、里芋などの農作物をまねてつくり、神棚へ上げます。

当日のだんご焼きには、針金にだんごを通し、さお竹の先につけて焼きます。書初めにかいた紙やお正月飾りの神棚の飾りや、お札を燃やしながらか、この1年の無事を祈ります。



## 【指定文化財】

指定文化財として、妙覚寺の四脚門（県指定重要文化財）や芳盛寺の僧空海画像（市指定重要文化財）など、社寺所有のものが多くあります。

## 【社寺】

土屋地区では、熊野神社が土屋全体の鎮守となっており、このほかに11の神社と、一族が祭祀している3つの一名（いちみょう）神社と5つの寺院があります。熊野神社のお祭りは大きく、戦前までは、神輿を担ぎ、田に入って練る神事や、流鏝馬（やぶさめ）も行われていました。

吉沢地区には、2つの八剱神社があり、それぞれが、上吉沢と下吉沢の鎮守となっています。吉沢地区には、このほかに3つの神社と、延命寺、妙覚寺、松岩寺の3つの寺院があります。

## 【湧水と滝】

湧水は、熊野神社周辺や座禅川沿いでみられました。なお、個人所有の自噴井は寺分の湧水群だけを調査対象としました。

滝は、土屋地区の段丘下の駒ヶ滝と尼ヶ滝、吉沢地区の霧降りの滝があります。



八剱神社(上吉沢) 2005年12月9日撮影



馬頭観音 2005年10月21日撮影



熊野神社井戸跡 2005年7月21日撮影

## 八剱神社の不動明王立像

下吉沢の八剱神社の不動明王は、いつ、誰の手によって彫られたのかわかっていませんが、地元では、「かんまん不動」の名で信仰を集め、国の重要文化財に指定されています。

かんまん不動は、平安時代後期の作風を備えており、均整のとれた立像です。

造立地については東国説と畿内説がありますが、この像の手慣れた彫技は当時の関東では稀なものと考えられ、12世紀頃、畿内地方で造られた可能性が強いと考えられています。

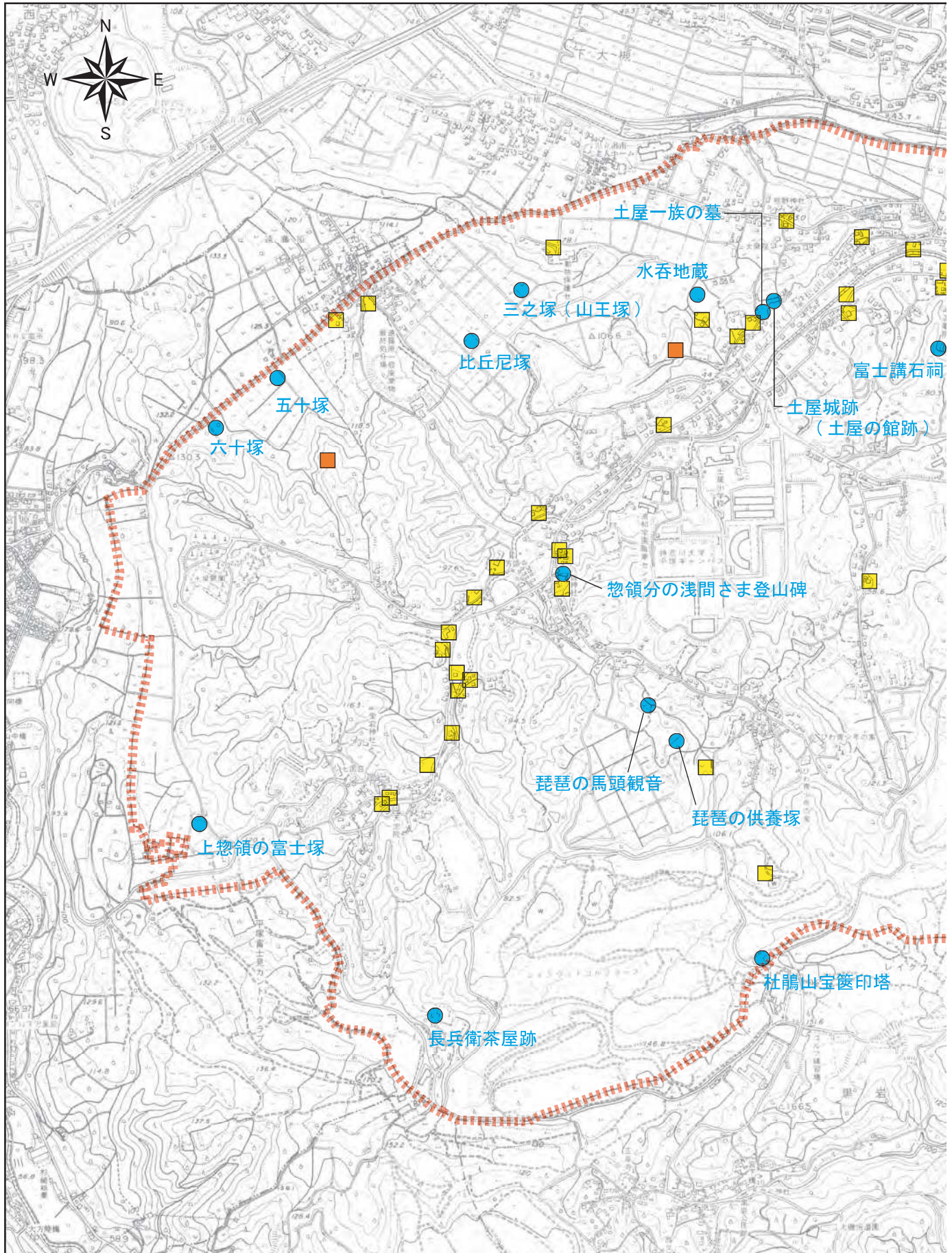
一般に、不動明王は、特有の忿怒（ふんぬ）の形相で畏怖感を与えることが多いものですが、かんまん不動は、不動明王としては、温和な表情をしています。

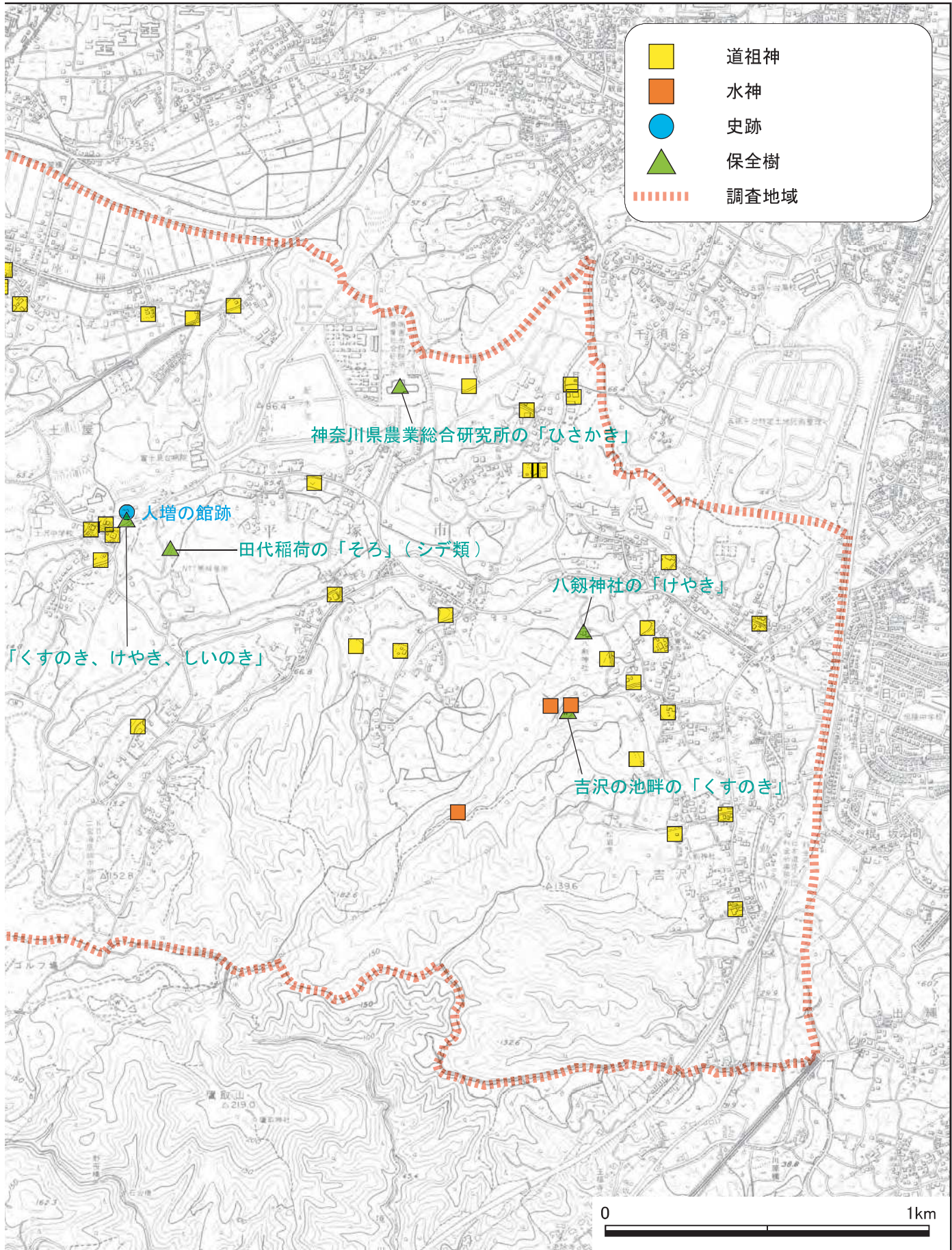
所有者 八剱神社（やつるぎじんしゃ）  
指定 昭和8年1月23日  
一木造 彫眼 彩色剥落 像高 95.8cm  
※ かんまん不動は、普段は公開されていません。



不動明王立像

# ■道祖神、水神、史跡、保全樹 分布図





指定文化財、社寺、湧水、滝 分布図

